4月21日発売!!

絶賛販売中

実体験にもとづく切実なメッセージを読者に届けたい！

購入予約はこちら
Amazon

こんな方にオススメ！

- 電子書籍と紙の本の違いを知りたい方
- 教育、出版、DXに関わる方
- デジタル時代の「読む力」に興味がある方

▶デジタル読書の時代に、なぜ紙の本はなくならないのか?

電子書籍、Kindle、タブレット、スマートフォン——。
デジタル読書が当たり前の現代でも、紙の本はなくなっていません。
むしろ、「やはり紙の本が読みやすい」と感じている人も多いはず。
では、紙の本の価値とは何なのでしょうか?

本書
『電子書籍時代の紙の本の価値 — 30か月間の読書の実体験からわかったこと』は、
認知科学とユーザインタフェースの研究者である著者が、
自らを被験者として行った長期デジタル読書実験の記録です。
著者は所有する紙の本を裁断してスキャンし、
電子書籍端末と電子ペーパー端末だけで読書を続けるという大胆な実験を行いました。
1年以上にわたり紙の本を使わずに仕事を行い、その体験を日誌として記録し続けました。

その結果、デジタル読書にさまざまな利便性があると同時に、
紙の本ならではの読みやすさや思考のしやすさが浮かび上がりました。
研究と実体験の両方から導かれた結論は、意外にもシンプルです。

「読書は身体行為である」

ページを手でめくったり、文字を指でなぞったり、ペンで書き込みしたり。
こうした身体的な行為が、読書体験を深いものにしています。
紙の本は単なる表示媒体ではなく、思考を支える「操作メディア」でもあるのです。

▶デジタル時代だからこそ、読書を考え直す

デジタル化が進む社会の中で、本を読むという行為はどう変わるのか。
そして、紙の本は必要なくなるのか。
30か月の読書記録から見えてきたのは、読書の本質でした。

紙とデジタルの未来を考えるすべての人に読んでほしい一冊です。

柴田　博仁

群馬大学大学院 情報学研究科教授。
専門はユーザインタフェース・デザインと認知科学。
読み書きの理解とICTによる支援を目指す。
2003年、東京大学大学院 工学系研究科 博士課程修了。博士 (工学)。
富士ゼロックス株式会社 研究技術開発本部 研究主幹、ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA) 電子ペーパーコンソーシアム 副委員長、人工知能学会 理事などを歴任。
2020年10月から群馬大学社会情報学部 教授。
趣味は温泉と散歩と日本酒。夢は前橋での本のまちづくり。

メルマガを発行しています。よろしかったら、ご登録ください。

メルマガ登録
SCAN HERE